

発表者 上溝高等学校 P T A 交通委員会

学校名 上溝高等学校

研究テーマ 「上溝高等学校 P T A の交通安全の対する取り組み」

1 はじめに

上溝高等学校がある相模原市は、市街地の中心が台地状で平坦な地形が広がっているため、自転車での移動が比較的容易です。

本校は相模原警察署管内ですが、管内の交通事故の発生件数は県下 54 署中 2 番目の多さです。交通事故の 4 割が自転車事故です。自転車事故は朝の通勤・通学の時間帯に突出して多く、特に中高生によるものが多いそうです。自転車を運転しながらのスマートフォンの操作、イヤホンの装着、傘さし運転など、事故につながる運転が多く見られます。

2 中央区「上溝」

本校のある中央区上溝は、町名別の事故発生件数が 59 件と市内最多です。原因としては、乗り方の問題もありますが、町並みの構造や地形も考えられます。上溝地区は古い町並みが残されていて狭い道路が入り組んでいます。また、相模川の段丘の中段に当たり、横山方面から本校に向かう道路は下り坂です。スピードが出すぎたり、雨天時にはスリップによる事故も発生しています。

3 相模原市の交通事故状況

次の資料にあるように、16 才から 19 才の年齢層では、自転車事故の件数は前年比で減少傾向にありますが、それでも全体の中で自転車事故件数が一番多い年代です。

<状態別年齢別交通事故発生状況 16 歳～19 歳>

(状態)	自動車	二輪車	自転車	歩行者	その他
負傷者	34	74	78	5	0
前年比	+14	+16	-14	-6	±0

4 上溝高等学校の状況

本校は、生徒のおよそ 70% が自転車通学です。自転車事故が発生する状況として多いのは、新入

生の入学直後の事故と、雨天時の事故です。特に雨天時は、多くの生徒がレインコートを着用し、自転車通学をしています。

事故の内容としては、単独でのスリップ事故、自転車同士の接触事故、自動車との接触事故、歩行者との接触事故など様々な事故があります。

5 上溝高等学校の取り組み

自転車事故が減らない中、本校としては教員・P T A により次の取り組みを行っています。

- ①教員・P T A による交通指導。
- ②文化祭での自転車シミュレーターによる交通安全指導。
- ③P T A 配付のセーフティ・カードによる事故対応指導。

以上の 3 点です。

6 教員・P T A による交通指導

一つ目の交通指導ですが、教員による交通指導が本校通用門前の十字路で毎日、また P T A 交通委員会による交通指導が、学校近くの通学路で毎月第 2 水曜日に実施されています。

写真は、P T A による交通指導の様子です。



交通指導を通して見えてきた問題点がいくつかあります。

本校周辺には狭い路地や曲がり角、また信号の

ない横断歩道があります。そのような場所での安全確認不足、一時停止無視などは、事故につながる可能性が高いと感じています。特に、本校駐輪場につながる通用門前では、始業時間直前に自転車による駆け込み登校が多く、かなり危険な状態です。

7 交通指導を通して

交通委員会では、交通指導を通してどうすれば自転車事故を無くすことができるのか考えました。

一つ目は、やはり交通安全意識の定着が不可欠であると考えました。安全走行するために、道路及び交通状況に応じて危険を予知し回避する意識を高めて欲しいと思います。また、思いやりと責任のある行動で、安全走行を心がけて欲しいと思います。

二つ目としては、時間に余裕を持つての登下校が望まれます。時間に余裕がないと、スピードの出し過ぎになり危険回避ができずに事故につながります。

8 自転車シミュレーターによる交通安全指導

自転車シミュレーターによる交通安全指導は、今年の文化祭で初めて取り組みました。



相模原市の地域振興課、安全安心まちづくり班の方々の協力で、新しいシミュレーターをお借りし実施しましたが、多くの生徒が興味を示し体験してくれました。相模原市役所の方のアドバイス

もあり、自転車走行での注意すべき点を確認することができました。

体験後のアンケートによると、ほとんどの生徒が自転車で、ヒヤリハットの場面に遭遇したことがあるということでした。歩行者や車にぶつかりそうになったという生徒が多く、事故の危険が身近にあるのだと感じました。

私たちも生徒たちも、自転車シミュレーター体験を通して、事故をおこさないように高い意識を持つことの重要性に気づくことができました。

9 セーフティー・カードによる事故対応指導

三つ目の取り組みは、セーフティー・カードの配付による事故対応の徹底です。セーフティー・カードは、PTAで作成し新入生全員に配付しています。事故など緊急時の対応方法や学校の電話番号が記載されています。万が一の場合、落ち着いて必要な行動を行うためのカードです。名刺ほどの大きさで裏がシールになっていて、自転車に貼付できます。



しかし、生徒にはあまり浸透していないようなので、今回、1年生全員にセーフティー・カードについてのアンケートを実施しました。

アンケートの結果ですが、51%の生徒がすでにセーフティー・カードを紛失していました。また持っている生徒の43%も、普段は自宅に置いたままで持ち歩いていないという結果が出ました。持ち歩いていない理由は、64%が面倒であるということで、事故に対する意識が低く、実際に事故に遭遇した場合の対応に、不安が残ります。

アンケートの結果を踏まえて、セーフティ・カードを携帯し有効利用してもらうために何をすべきか考えました。

- ・事故防止の啓発活動を行い、万が一に備える気持ちを養う。
- ・自転車への貼付は抵抗が大きいようなので、生徒手帳などへの貼付を働きかける。
- ・スマートフォンなどへのデータの取り入れを検討する。
- ・バッグなどに付けられるように、セーフティ・カードのタグ化を検討する。

などの案があがりました。

10 上溝駅北側歩道橋に設置された横断幕

今年度、相模原地区交通安全大会の幹事校になったことで、上溝高等学校だけではなく、地域全域での事故防止啓発のため、比較的事故が多く発生している上溝駅北側の歩道橋に事故防止を訴えた横断幕を期間限定ですが設置しました。



11 上溝高等学校の取り組みのまとめ

以上、上溝高等学校の交通安全に対する取り組みについて紹介しました。子どもたちが事故の加害者・被害者になることがないように、学校と連携して引き続き取り組んでいきたいと思います。